

③エンジンの回転不調、または、出力不足

現象	原因	対策
エンジンが異常に加熱する	燃料不調切	規定の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンドフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱値のスパークプラグを使用する
スパークプラグに飛び火花が強い	燃焼室にカーボンが堆積している	※
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔調整、交換をする 正規の熱値のスパークプラグを使用する
吸、排気系の不具合	エアクリンが汚れている	エアクリンを清掃する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラの詰まり	※

④エンジン運転中停止する

現象	原因	対策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグを清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または、不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

⑤エンジン停止が困難

現象	原因	対策
エンジンストップボタンを押してもエンジンが停止しない	エンジンストップボタンのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱値のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関しては、お買い求めの販売店にご相談ください。
その他、不明な点は、販売店にご相談ください。

— 14 —

ASABA

背負式高圧動力噴霧機

さすけ

型式：EP-215D1
EP-220D1

取扱説明書

このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した△の表示のある注意事項や、機械に貼られた△の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。尚、△の表示のあるラベルが汚損したりはがれた場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した△の表示のある注意事項や、機械に貼られた△の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- △危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- △警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- △注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

尚、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、本書に[要約]の表示を用いています。

目次

- ◇安全のために必ずお守りください……①
 - 作業前
 - 農薬・薬液の取り扱い
 - 作業中
 - 作業後と保管
- ◇仕様……②
- ◇ポンプ及びノズル性能表……③
- ◇梱包部品一覧……④
- ◇各部の名称とラベル貼付位置……⑤
- ◇運転を始めるまえに……⑥
- ◇運転……⑦
- ◇整備と長期保管……⑧
- ◇故障と対策……⑨

ASB 株式会社 麻場
 本社／〒381-8530 長野市北長池1443-2
 TEL：026-244-1317
 URL：https://www.asaba-mfg.com
 680024570-2024.11

動力噴霧機保証書 (大切に保管してください)

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 弊社では、本製品を末永くご使用いただくため、保証業務を行っております。
 1. 本製品は厳密な品質管理と検査を経てお届けしたものです。万一保証期間内に、注意ラベル、取扱説明書の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、商品に本保証書を添えて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
 2. 保証期間内でも次のような場合は有料修理になります。
 ・ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障、又は損傷。
 ・火災、地震、風水害、雷、その他天災地災、盗害、公害や異常電圧による故障、又は損傷。
 ・消耗部品（パッキン、Oリング等）の損耗交換時の部品代及び修理代。
 ・保管状態が適当でない場合の故障、又は損傷。
 ・本保証書のご提示がない場合。
 ・本保証書の所定事項の未記入、あるいは半句を弊社の承認を得ることなく修正した場合。
 3. 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
 4. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

※本保証書に記載された内容のもとにおいて、無料修理を行うことをお約束するもので、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 ※保証期間経過後の修理等についてのご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
 ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動および、その後の安全活動のためにご利用させていただきありがとうございますのでご了承ください。

型 式 **EP-215D1/EP-220D1** (どちらか1方に○を付けてください)

製造番号

保証期間 お買い上げ 年 月 日より
1年間 (但し、消耗品は除く)

お 客 様

フリガナ

お名前

ご住所 〒

TEL

取扱販売店

店名/住所/電話

修理メモ

ASB 株式会社 麻場

本社／〒381-8530 長野市北長池1443-2
 TEL：026-244-1317
 URL：https://www.asaba-mfg.com

<安全のために必ずお守りください>

★作業前

危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
 ・燃料補給時は、火気に充分注意してください。
 ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 ・燃料タンクの給油ローヤまで燃料を入れないうでください。
 ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
 ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、直に使用する場合は、自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 ・酒気をおびた者
 ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 ・妊娠中の者
 ・満15歳未満の者
 ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等各部に異常がないことを確認してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与または、譲渡する場合は、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するように指導してください。

★農薬・薬液の取り扱い

危険

- ・防除、除草用の農薬用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・混合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の混合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・農薬は、必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は、薬害のない方法で処分してください。

— 1 —

★作業中

危険

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および、停止直後のエンジン（マフラー等）は高温になっています。やけどをさせる恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。



※安全のための服装

注意

- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・作業中に噴口部を、清掃または、交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、レバーロックを開いて、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：O』の位置に合わせ、エンジンを停止してから行ってください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

★作業後と保管

注意

- ・前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を、十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び、機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・エンジンを止めても、ポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、レバーロックを開いて、ポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに、目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は、衣服を毎日取り替えてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

—2—

＜仕様＞

型 式	EP-215D1	EP-220D1
本機寸法 (H×W×L)	565×400×340mm	590×400×340mm
質 量	8.5kg	8.8kg
薬液タンク容量	15ℓ	20ℓ
ボ 形 式	対向2連プランジ式	
ポン プ	ポンプ吸水量	7.0ℓ/min (1740rpm 圧力：0MPa時)
	最 高 圧 力	2.5MPa
エ ン ジ ン	燃料タンク容量	0.65ℓ
	使 用 燃 料	(混合比25：1 JASO FC級) 混合ガソリン (混合比50：1 JASO FD級)
	エンジン型式	ASABA D26C 空冷2サイクル
	エンジン排気量	25.6cc
	キャ プ レ タ	ダイヤフラム式 ロータリバルブ
	最 高 出 力	0.74kW (1.0PS) / 7500rpm
	点 火 方 式	フライホイールマグネット
	スパークプラグ	チャンピオン CJ6Y
	始 動 方 式	アシスト式リコイルスタータ

※上記の性能値は清水にて運転した当社テスト値であり、保証値ではありません。使用環境によりその値は変化します。

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

※潤滑油混合ガソリンには必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。

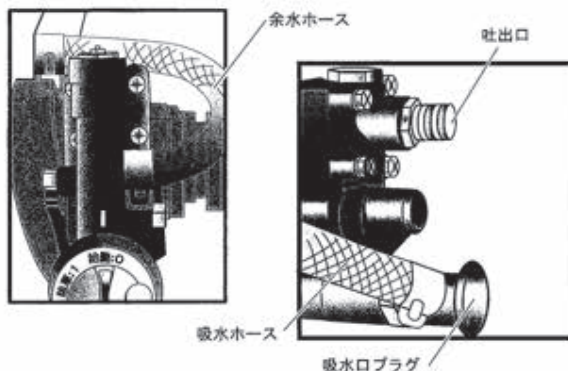
—3—

⑥長期保管

長期時（60日以上）に渡って本機を使用しないときは、次の事項を実施してください。

重要

- ・薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して、ポンプやホースを洗浄してください。
- ・冬期間の凍結防止のため、余水ホースと吐出ホース及び、吸水口プラグを、ポンプから外して、エンジンを運転し、完全に水抜きを行ってください。この時、必要以上（5秒以上）にポンプの空運転を行わないようにしてください。保管時は、上記のホース、吸水口プラグは外しておいてください。
- ・燃料タンクの残留燃料を、完全に抜き取ります。燃料タンクを空にした後、プライマポンプを数回押し、キャブレタ内の燃料も抜いてください。
- ・スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から、4～5滴のエンジンオイルをシリンダに流し込みます。スパークプラグを付け、リコイルスタータを2～3度引いて、オイルをシリンダ内に行き渡らせます。
- ・プラスチック部品は、直射日光に長期露さらされると、著しく強度が低下する場合があります。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなりますので、保管には充分注意してください。



注意

- ・本体、エンジン、ポンプの外部を洗浄し、充分に乾燥させてからカバー等を掛け、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

—12—

＜故障と対策＞

①ポンプ

現 象	原 因	対 策
吸水しない	タンクに薬液がない	薬液を補給する
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※
圧力があがらない、安定しない	吸水ホースの詰まり	吸水ホースを外し、洗浄する
	ポンプの回転数が低い	エンジンの回転数を上げる
	遠心クラッチのスリップ	※
	調圧弁の詰まり、または、摩耗、傷	※
噴霧状態が悪い	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※
	圧力が上がらない	前述参照
液漏れ	噴板穴の摩耗	噴板を新品に交換する
	噴口が不適切	ポンプ性能に合った噴口を使用する
	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※

ポンプ内部のシール類に関しては、補修パーツ（ポンプパッキンセット）が用意されています。お問い合わせの販売店にご相談ください。

②エンジン始動不能、または、始動困難

現 象	原 因	対 策
キャブレタまでガソリンが来ていない	燃料タンクに燃料がない	燃料を給油する
	プライミングしていない	プライミングポンプを4～5回押す
	燃料チューブの詰まり	燃料チューブの清掃、曲がりを矯正する
	燃料タンクキャップの通気穴の詰まり	燃料タンクキャップを清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	スパークプラグを新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグをワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグの電極間隔が不適	スパークプラグの電極間隔を0.6～0.7mmに調整する
	スパークプラグキャップ不良、または、スパークプラグコード断線	※
爆発の兆候がない	点火装置不良	※
	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
スパークプラグが動いている	キャブレタの詰まり、または、調整不良	※
	チョークの開き過ぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
その他	キャブレタのオーバーフロー	※
	マフラーの詰まり	※
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

—13—

④停止

- 1) レバーコックを開きます。
- 2) 調圧ダイヤルを、『始動：0』の位置に合わせます。
- 3) スロットルレバーを、低速回転側に戻します。
- 4) エンジンストップボタンを押して、エンジンを止めます。

重要

- ・使用中に薬液が無くなったときは、速やかにスロットルレバーを低速回転側に戻し、エンジンを停止してください。
- ・ポンプの空運転は、故障の原因になります。作業中、整備点検を問わずに、30秒以上は行わないでください。

⑤使用後のお手入れと保管

- 1) ドレンキャップを外し、薬液タンク内の残液を排出します。
- 2) 薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して噴口より吐出させ、ポンプ、ホース、ノズルパイプ及び、噴口を洗浄します。清水が吐出しなくなったら、速やかにエンジンを停止します。

注意

- ・前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を、十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び、機械の洗浄水は、河川、水源地、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・エンジンを止めても、ポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、レバーコックを開いて、ポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜整備と長期保管＞

※日常的なお手入れは、＜運転＞の⑤使用後のお手入れと保管をご覧ください。
整備に関してのご不明な点は、お買い求めの販売店にご相談ください。

①エアクリーナ

エアクリーナ内のスポンジが汚れていると、吸気が不安定となり、エンジンの性能が十分に発揮されません。時々、エアクリーナを外し、スポンジをガソリンまたは、洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。

スポンジ

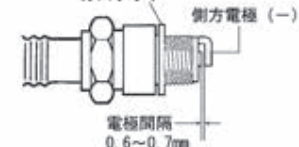


②スパークプラグ

50時間の運転を目安に、スパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6～0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合は、スパークプラグを新品に交換してください。指定スパークプラグは、チャンピオンCJ6Yもしくは相当品です。

ガスケット

側方電極 (-)



電極間隔
0.6～0.7mm

③配管

注意

- ・タンク、ホース、接続部分に、ヒビ、割れ、漏れがないか確認します。異常がある場合は、速やかに交換してください。

④ブリーザ

薬液タンクキャップ裏側にあるブリーザ穴が詰まると、散布時に薬液タンクがへこみ、破損する恐れがあります。時々外して、ブリーザ内のブリーザ及び、通気穴を清掃してください。組み立ての際は、ブリーザ弁の向きに注意してください。

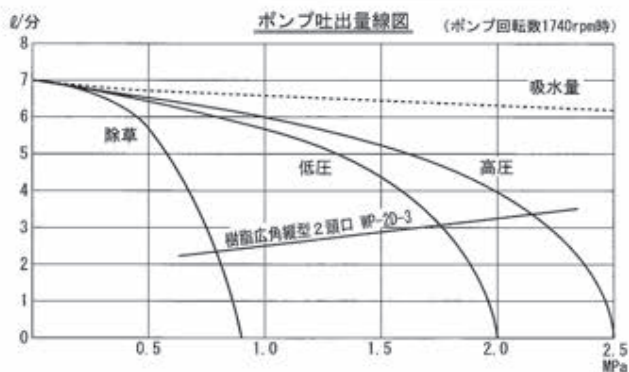
ブリーザ



⑤ポンプ内部のシール類

2年の使用を目安に、ポンプ内部のシール類の交換をお勧めいたします。シール類の交換については、お買い求めの販売店にご相談ください。
(補修パーツとして、ポンプパッキンセットが用意されています。)

＜ポンプ及びノズル性能表＞

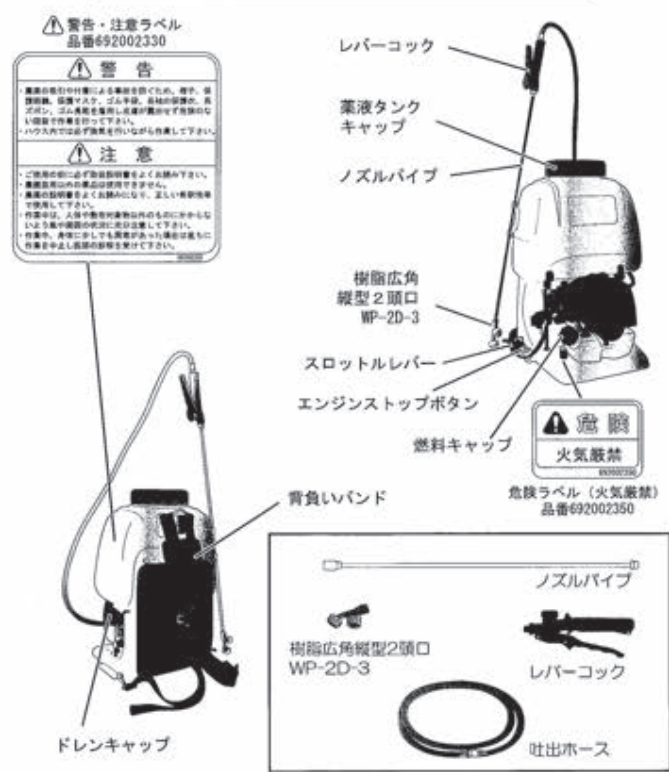


＜梱包部品一覧＞

最初に、梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または、破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共に買い求めの販売店にお知らせください。保証書は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

部	品	数量
樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3	G1/4	1
レバーコック	LC-35	1
ノズルパイプ		1
吐出ホース		1
本体一式		1
取扱説明書(本書)		1
保証書(本書末頁)		1

＜各部の名称とラベル貼付位置＞



- ・⚠の表示のラベルが、汚損したりはがれた場合は、お買い求めの販売店にラベル名と品番を注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- ・新しいラベルを貼る場合は、汚れをふき取り、乾いた面にして、もとの位置に貼ってください。

<運転を始めるまえに>

①部品の取り付け

- 1) 本機に付属の吐出ホース、レバーコック、ノズルパイプ、噴口の順にしっかりと組み付けてください。
- 2) 本機には標準噴口として、樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3が付属しています。他の噴口を使用する場合、噴口によっては性能を保証できないものもありますので、《ポンプ及びノズル性能表》を参照して、樹脂広角縦型2頭口と同等の噴口を選択してください。



樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3

⚠注意

- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。

②レバーコックの取り扱い

- 1) レバーとロックハンドルを一緒に操作すると、燃える噴霧、燃すとストップの断続噴霧ができます。
- 2) レバーのみを操作し、ロックハンドルが「カチッ」と音がするまで深く握ると連続噴霧になります。連続噴霧の状態から、ロックハンドルとレバーを同時に握り、燃すとストップの状態になります。



③薬液の調合、充填

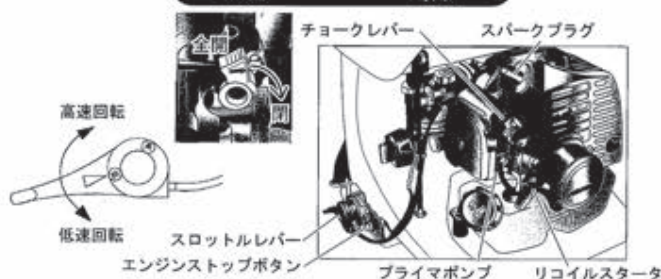
- 1) 薬液タンク容量は15ℓ(20ℓ)です。薬液タンク側面に5、10、15ℓ(20ℓ)の目盛りが付いていますので、充填、混合の目安にしてください。
- 2) 農業は、他の容積で調合してください。やむをえず薬液タンク内で調合する場合は、必ず最初に水を所要量の半分ほど入れてから農薬を入れ、残りの水を入れて希釈してください。

重要

- ・薬液あるいは、清水を薬液タンクに入れる時は、必ず付属のストレーナを通して入れてください。薬液タンク内の薬液、清水に異物やゴミ等が混じると、故障の原因になります。
- ・土壌消毒剤、土壌燻蒸剤は、故障の原因となりますので使用しないでください。

—⑤—

<運 転>



①始動（エンジンが冷えている場合）

- 1) 調圧弁ダイヤルを、『始動：0』の位置に合わせます。
- 2) スロットルレバーを、低速回転側（アイドル回転側）に合わせます。
- 3) チョークレバーを、『閉』の位置に合わせます。
- 4) キャブレタのプライマポンプを、指で4〜5回押してキャブレタに燃料を十分に送り込みます。
- 5) エンジンを手で押さえ、リコイルスタータを引っ張り、混合気をシリンダに吸い込ませます。改めて、リコイルスタータを引っ張るとエンジンが始動します。
※）アシストリコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。
- 6) エンジンが始動したら、1〜2分間暖気運転を行ってください。暖機運転が終了し、スロットルレバーを低速回転側から高速回転側へ操作すると、チョークレバーは自動的に『全開』になります。

②再始動（エンジンが暖まっている場合）

- 1) 運転停止直後に再始動するときは、チョークレバーを『全開』にして始動します。始動しない場合は、エンジンが冷えている場合の始動法を始めてから行ってください。

重要

- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引き込まないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、勢いよくもとに戻してください。

⚠注意

- ・防除作業以外の時は、液漏れや、突然の噴霧防止のため、レバーコックは必ず閉じた状態にしてください。始動前には必ず確認してください。

③散布作業

- 1) 薬液タンクキャップが確実にしまっていることを確認します。
- 2) 調圧弁ダイヤルは『始動：0』、『除草：1』、『低圧：2』、『高圧：3』の位置で『カチッ』と止まります。次の図表を参照し、作業条件に合わせて設定します。
- 3) 始動した本機を背負い、スロットルレバーを高速回転側に回し、エンジン回転が安定する位置にレバーを止めます。
- 4) レバーコックを開いて散布作業に入ります。

—⑥—

⚠注意

- ・薬液を薬液タンクに充填後、薬液タンクキャップは確実にしめてください。
- ・防除、除草用の農薬は農薬の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液を入れる前に、必ずエンジンは停止させ、レバーコックは必ず閉じた状態にしてから薬液を入れてください。

④燃料の充填

重要

- ・燃料は、必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- ・混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、FC等級(JASO)以上の2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を十分に引き出すため、使い初めの20時間前後は、オイルを多めに入れて（ガソリン：オイル=20：1）慣らし運転を行ってください。
- ・燃料の混合は、本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。
- ・2サイクルエンジン専用オイルは必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。FC級未満のオイルをご使用されますと、エンジン本来の性能が発揮されない恐れがあります。

⚠危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
- ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
- ・燃料補給時は、火気に充分注意してください。
- ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
- ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
- ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
- ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合は、自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

⑤定置使用

※別売りの吸水ホースと、余水ホースを使用して、別薬液タンクから散布する場合

- 1) 本機のポンプ側に付いている、吸水ホースと余水ホースを外します。
- 2) 別売りの吸水ホースと、余水ホースを本機に取り付け、ホースバンドでしっかりとめます。
- 3) 通常の散布と同様の手順で、エンジン、ポンプを操作します。

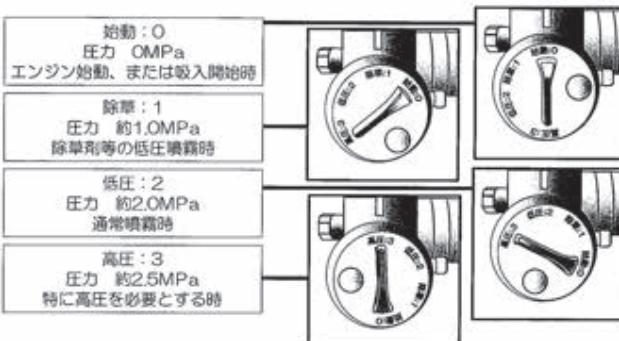
⚠危険

- ・本機が転倒し、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、本機を凹凸のない、平らな場所に設置してください。

⚠注意

- ・吸水ホース、余水ホースは、別薬液タンクから飛び出さないよう、薬液タンクに固定してください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

—⑦—



※『高圧：3』は、定置運転で100m程度のホースを使用するとき等にご使用ください。

この時のホースによる圧力損失は、内径φ8.5ホースを使用した場合、0.5MPa前後です。

※上記圧力は、レバーコックを開いた状態での圧力です。噴霧時の圧力は、使用する噴口の吐出量によって変化しますので、ポンプ性能表を参照してください。

重要

- ・遠心クラッチを使用しています。クラッチが滑るような低速回転での使用は避けてください。（クラッチが滑ると、薬液の吐出が不安定になります。）
- ・作業中に噴霧を一時停止させる時は、レバーコックを開き、スロットルレバーを低速回転側に戻してポンプを停止してください。燃料の節約、エンジン、ポンプの耐久性向上に役立ちます。

⚠警告

- ・農薬の吸入や、付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および、停止直後のエンジン（マフラー等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。

⚠注意

- ・作業中に噴口部を清掃または、交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、レバーコックを開き、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせて、エンジンを停止してから行ってください。
- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないよう、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

—⑧—